

カナン東京日本語学校

2023年度 自己点検・評価

5：達成している／4：ほぼ達成している／3：どちらともいえない／2：取り組みを検討中／1：改善が必要

1. 教育の理念・目標等

評価

1-1	学校の理念・目標や育成する人材像は明確となっているか	5
1-2	学校の理念・目標は全教職員に共有されているか	5
1-3	学校の理念・目標や育成する人材像は社会のニーズに合致しているか	5
1-4	学校の将来構想は策定しているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

当校の教育理念は以下の通りである。

1. 「世界で活躍できる人材」を育成する
2. 自ら考え、他者と協働ができる人材を育成する
3. 学生の目標とする進学先合格に向けて最大限支援を行う

当校の留学生は100%、進学及び就職を希望する。教職員は学生たちが目標に到達できるよう、上記の学校理念に沿った教育を行っている。

この理念は、全教職員が出席する半年に一度の会議の場や、入学式等の式典の際に、その意図や意味について全教職員伝えている。また、常に学校全体として学校理念に対する共通認識が持てるよう、学習者の母国語に翻訳した学校パンフレットへの記載、ホームページでの公開を行っている。加えて、専任教職員の評価軸となる目標管理シートにおいては、学校理念・教育目標を元に各部の目標が設定されており、各専任教職員がこれらを元にして各自の目標を設定をしている。

一方で、変化の激しい現代社会に対応し新たな価値を生み出していくためには、数ある選択肢の中から最適なものを選び取れる能力と、他者を認め他者より学ぶ姿勢が必須であるという認識のもと、学習者の能力向上と同時に全方位的な人格形成を支援している。

実際の授業では、「他者と協働ができる」よう教室内を常に対話の場として設定し、すべての科目で『対話』と『協働』を取り入れ、日本語による自己表現と他者理解を通して、日本語力向上はもちろん、思考力・対話力・社会的スキルを伸ばしている。

学校の将来構想については、中長期計画を定めており、各メンバーが中長期計画を念頭に置いた上で日々の業務を行っている。また、半年に一度開催される全教職員会議の場においてもその進捗度合いと新たな計画や変更点についても明示し共有している。学校として、現状維持を求めるのではなく、常に進化を求めてより良い教育にし、より良い環境を全学生・全教職員に提供するために、教育機関としての体制を強化することを目指している。

2. 学校運営

評価

2-1	日本語教育機関の告示基準は満たしているか	5
2-2	学校の理念や目標に沿った運営方針や事業計画は策定されているか	5
2-3	組織運営や意思決定システムは整備されているか	5
2-4	人事や賃金、財務管理に関する規定は整備されているか	5
2-5	コンプライアンス体制は整備されているか	5
2-6	危機管理体制は整備されているか	5
2-7	IT化等による業務の効率化は行っているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

告示基準については、設置代表者・校長を中心に全専任教職員に向けて日本語教育機関の告示基準のレクチャーを行い理解醸成に努めるだけでなく、各部部長が業務内において告示基準から逸れることがないように精査を行っている。

組織については、それぞれの部、チームのリーダーに権限移譲をし、各リーダーが責任を持って各メンバーに指揮を取り、意思疎通を図っている。また、行事においては各部が緊密に連携を取りながら企画・準備・実施を行っており、横のつながり、コミュニケーションの強化に繋がっている。

このような組織の土台を背景に、意思決定においては各部で各職員が自らが積極的に立案、議論し意見形成をした上で責任を持って提案を行い、会議では経営陣による最終確認が行われるのみという形が整えられている。しかしながら、緊急時にはトップダウンでの迅速な意思決定、指示を行うなどして、臨機応変に対応している。

コンプライアンスについては、外部講師を招聘し毎年ハラスメント研修、個人情報、情報セキュリティの研修等を行い、リテラシーの向上に努めている。

危機管理体制について、本校独自の「学校危機管理対応マニュアル」を作成・運用しているが、新型コロナウイルス感染症での経験を踏まえ、当校の対応例をまとめて追記をしている。また、年1回の災害対策動画（地震編・火災編）を用いた避難訓練、年1回の防災体験を実施しており、その後の反省会の内容を元に常にアップデートを行っている。また、情報共有の面において、災害による休校などの際には、当校使用のSNSを通じていち早く情報発信を行うこととしており、学生・全教職員にもそのフローを周知している。

IT化については、常に業務の効率化を目指し新たなツールなどの導入により推進を続けている。各教室においては、ICT教育の一環として一部に留学生がPCやスマートフォンを使う授業を行っているため、学校内全ての場所において留学生がWi-Fiに接続できる環境を整備している。

3. 教育活動

評価

3-1	教育理念に沿った教育課程(カリキュラム)は体系的に編成されているか	5
3-2	成績評価や進級、修了の判定基準は明確、且つ適切に運用されているか	5
3-3	教員の指導力(教育の質)向上のための取り組みは行っているか	5
3-4	教育課程(カリキュラム)の改善のための取り組みは行っているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

当校の教育理念である「世界で活躍できる人材の育成」を目指し、対話を中心とした授業を行っている。

初級→超級へと成長できるように、学習期間を通してのカリキュラム表、学期進度予定表、2週間ごとのスケジュール表という各種の授業計画表を準備し、体系的な指導が行えるようにしている。

授業に関しては、日本語力向上と「対話力」「思考力」「社会的スキル」育成に力を注いだカリキュラム編成となっており、大学・大学院・専門学校合格、就職試験突破のみを目標にはしない教育を行っている。同時に、JLPT対策授業、EJU対策授業という大きな2つの試験対策の授業も用意している。

評価に関しては、クラスごとの到達度テストと半年に一度の外部試験を使った熟達度テストを行い、学生の到達度と熟達度の両面から学習力向上に対する評価を行っている。

定期的に講師勉強会や授業見学会を行い、教授法や学生との関わりについて積極的に意見交換をしている。加えて、学期末に行う授業アンケートから、学生からの声（ニーズ）も取り上げ教師にフィードバックし、学生の意見も先生の授業へ反映させている。

この学生の成績の伸び率、学生アンケート、講師陣からの意見を基に、定期的カリキュラム・シラバスの見直しを行っている。

年度末には、主教材から副教材までの教材の見直しのためのミーティングを行い、よりよい授業を行うためのカリキュラム・教材の改善を行っている。

加えて、教科書の著者や大学教授などを招いて、当校の教育課程や教え方についての意見交換、勉強会、研修会などを行っている。

全ては学生のために！

4. 学修成果

評価

4-1	日本語能力向上のための取り組み、把握は適切に行っているか	5
4-2	各種試験の合格率或いは成績向上のための指導体制は整っているか	5
4-3	進路が決定するまでの指導、把握は適切に行っているか。	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

1. 日本語能力向上のための取り組み、把握

毎週末、学生は自らの学習進捗・学習課題を振り返るためにリフレクションシートを作成し、教師へ提出。自らの課題発見とその改善に取り組んでいる。教師はシートを利用し学習目標と学習の進捗などについてFBを行っている。また、各学期末には到達度を測るために期末試験を実施。半年に一度、熟達度を測るために外部試験を受験し、到達度と熟達度の面から学生の日本語力を把握し、向上に向けたサポートを行っている。そのサポートは試験だけでなく、学期末に行われる担任と学生の1対1のカウンセリングも含まれる。以上のように日々の学習課題の取り組みや毎週のリフレクションシート、学期末の試験を通して自らの日本語力に向き合い、日本語力向上を行っていくための取り組みを行っている。

2. 成績向上のための指導体制

毎週のリフレクションシート⇒教師のFB⇒期末試験（左記に加え、半年に一度の外部試験）⇒学習プランシートを使った担任による1対1での学期末カウンセリングを実施(通訳を入れることもある)。

上記の体制以外に、学習面で課題を抱えている学生に対してクラスの教師が学期期間中に個人面談を実施している(通訳を入れることもある)。

3. 卒業が決定するまでの指導体制、把握

学生との面談から志望校を把握⇒外部企業主催の進学説明会参加⇒志望校選定⇒（オープンキャンパス参加）⇒出願書類準備⇒志望理由書作成⇒面接・試験対策などの一連の流れを指導し、学生個人ごとに個別サポートしている。

面談内容は、面談記録シートに記入し、進捗は毎週の教務部MTGで確認している。問題等あった場合は担当教員だけでなく、学生部も含め学校全体でフォローを行っている。

5. 生徒支援

評価

5-1	学習や生活等の相談に対する支援体制は整備されているか	5
5-2	学生の身心の管理、事故、怪我等が起きた際の体制は整っているか	5
5-3	日本での生活の指導や支援、犯罪に係る防止教育は行っているか	5
5-4	防災や緊急時における体制が整備されているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

入学時にオリエンテーションとして、当校職員による通訳を入れて、当校の新入生ハンドブック（各国語訳あり）を使用し、生活における注意点などの説明を行っている。さらに、警視庁や東京都青少年・治安対策本部より留学生向けの注意説明会の実施、必要に応じて警察署から講和をして頂くことで、学生が安心して留学生活を始められるようにサポートを行っている。

その他、年4回以上の学生向け長期休みの注意説明会を通じて、出席率、アルバイト、自転車交通ルール、生活マナーなどをテーマとして、しっかりと学生に指導している。さらに、学生の出席率が低下しないよう、担任を中心に母国語を話せる職員が通訳に入って面談を行い、適宜指導を行っている。また、学校の告知や注意喚起は学生管理システムを通じて教師間、部門間で徹底的に共有している。

防災については、危機管理マニュアルを作成し、連絡フローなどを規定している。また、マニュアルに基づいて、年に1度全校生を対象として避難訓練を実施することで、日頃より緊急時における体制を整備している。

6. 教育環境

評価

6-1	学校の施設・設備が十分且つ安全に整備されているか	5
6-2	実際に使用している教材は適切であるか	5
6-3	学習効率を高めるための環境整備はなされているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

毎日放課後に校舎の見回りを行っており、施設・設備に破損、不備などがあつた際には、新品への買い替え・改修・クリーニング等必要に応じて対応している。また、備品を長期に渡り使用させるため、教職員・学生へ常に使用方法について注意喚起をおこなっている。

教材については、弊校の教育理念に最適な教材を複数ある候補の中から選別し使用している。成績が伸び悩むクラスに関しては、補習を行うなどの対応をおこなっている。

学生には必要に応じ、PC等の機器を貸し出し、学習の用途にかぎりいつでも利用ができるようにしており、また自主学習ができるスペースとして自習室を設置、受付前の空間も解放している。

7. 入学者の募集

評価

7-1	入学者の募集活動、入学選考は適正に行っているか	5
7-2	募集活動の際に学校情報は正確に伝えられているか	5
7-3	授業料は適切であるか	5
7-4	定員数に応じた募集活動は行っているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

担当者が現地に赴き、面接・書類審査を実施し入学者の選抜を行い、入国の条件が厳しい国は引き続きオンライン面接と書類審査をもって、厳選に選抜し、適切な募集活動を行っている。

募集活動においては、学校説明会や入学者への面接等で学校の情報を正しく提供している。また、2023年度に新しく募集要項・パンフレットを刷新したことで、今後はより詳細に最新の情報を伝えることが可能となっている。

8. 財務

評価

8-1	中長期的に財務基盤は安定しているか	4
8-2	予算・収支計画は有効且つ妥当なものとなっているか	5
8-3	財務について、会計監査は適切に行っているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

コロナの影響も以前に比べ軽微となってきたため、コロナ前の水準に戻り財務面に関して問題なく運営できている。コロナ禍から継続して行ってきたコスト削減については、継続して行うことができ、全教職員意識して取り組むことができたと考えている。

毎年ボードメンバーにおいて、毎年のデータを元に各年度の予算・収支についての最終決定を行っており、その後も計画の通り遂行できるよう、厳正なる精査を行っている。

現在、新たなプロジェクトに向けた予算割り当てを行っているが、スピーディーな判断をもって、成長が期待できないものは外し、成長が期待できる分野は注力していくという選択と集中を行い、新規事業として結果を出せるように学校としてサポートを行っている。

9. 法令遵守

評価

9-1	各種法令等の遵守と、適切な運営はされているか	5
9-2	個人情報の保護の取り組みは行っているか	5
9-3	自己点検・評価を実施・改善は行っているか	5
9-4	自己点検・評価の公開は行っているか	5
9-5	関係省庁への届出、報告を遅滞なく行っているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

当校は法務省告示校として、法令・設置基準を満たしており、法務省からも「適正校」としての認定を受けている。

個人情報保護について、教職員においては人事労務関連、また学生の申請書関連もGoogleFormでの申請へ徐々に移行するなどペーパーレス化を推進することでリスクの低減につとめている。

自己点検・評価については、毎年度実施・改善を行っており、ホームページ上でも情報の公開を行っている。日本語教育機関に係る各種変更の届出、行政に係る届出においても遅滞なく実施できている。

今後も教育サービス自体の更なる質向上・サービス提供環境の改善活動を継続し、健全な学校運営維持に努める所存である。

10. 地域貢献・社会貢献

評価

《現状・具体的な取り組み／課題》

江東区民まつりや「江東区国際交流のつどい」にて「やさしい日本語」の普及活動等、地域の国際交流イベントに積極的に参加し、日本人、在日外国人相互間の理解と交流に努めている。また、江東区の地域日本語教育事業「日常生活で使える日本語教室」についても今後請け負う予定である。

毎週末には在日中国人児童に対する継承中国語クラスに教室を貸し出し、複言語の環境で人格形成をする年少者の育成に貢献している。また、地域の生活者向けの日本語授業を行っており、日本語を必要とする生活者とりわけ日本語力が不足している就学年齢の生徒が基礎日本語を身につけられるよう努めている。

上記のように日本語を必要とする生活者に対し日本語学校という資源を活用してもらうための取り組みはしているが、今後は更に、留学生と地域の方々が触れ合えるような活動を企画し、相互理解を深めたい。

学生に対するボランティア活動の奨励・支援については、十分とは言えない。ボランティアという好意を受けるだけでなく、自らも自発的に行動できることがあるということを知ってもらえるよう、今後は地域のボランティア団体とも連携を取り、学生の成長に繋げていきたいと考えている。

《総括》

本校には、3つの学校目標がある。

【学校目標】

1. 人生をdesignできる人材を育成する
2. 学校に関わる人々にとって最適な環境を作る
3. 東京都を代表する日本語学校になる

全教職員が一丸となって全力で学校目標の実現に向けて取り組んでいる。

学校の運営においては、「学生の満足度を上げる」ことも重要項目ではあるが、その教育を提供する側の教職員が最高のパフォーマンスができるよう最適な環境を提供する必要があると捉えており、絶えず働きやすい環境を整備し、「教職員の満足度を上げる」取り組みを行っている。

次年度以降も、これらの目標達成に向け、さらなる組織力・教育機関としての体制強化を目指し、学院一丸となり力を入れ取り組んでいく同時に、今後も「東京都を代表する日本語学校になる」という目標に向かって、積極的な取り組みや施策を通じて良い学校づくりを続けていく所存である。